

## 目指すは「選ばれるまち 松江」

### 1. はじめに～不思議なご縁～

執筆の依頼があったとき、ちょっと驚きました。と、同時に、2007（平成19）年2月に本市であったシンポジウムが鮮明に、時にうつろによみがえってきたのです。地元新聞社が主催するシンポジウムのテーマは「未来への指針～中海・宍道湖・大山圏域の将来を考える～」。何と、今回いただいた特集テーマ「地域活性化の推進」、そのものだったのです。しかも基調講演をなさったのが、貴協会の大石久和会長（当時は東京大学大学院情報学環特任教授）であり、基調講演を受けてのパネルディスカッションに私もパネラーとして同席させていただいたのです。何という偶然の重なり合いでしょうか。

その際の鮮明な场景は後回しにして、うつろな场景から…。シンポジウム前夜にあった、打ち合わせを兼ねた親睦の宴でのこと。膳に並ぶ松葉ガニやアワビ、島根和牛などに感嘆、興奮し、うまい地酒で全員口も酔いも回る。挙句、本番はシナリオがあってなき状況に。「それほど松江の食べ物や酒はおいしいこと」との言い訳も、当地ではそう大げさなことではないのです。拙文が載る5月は、岩ガキとアゴ（トビウオ）がシーズンインし地酒がすすむのは間違いなく、宍道湖のシジミも産卵前で、みそ汁はそれこそアゴが落ちるうまさなのですから。

### 2. キーワードは「連携」

話を記憶も鮮明な本筋に戻します。11年前に

あったシンポジウムでの助言や提案は今も色あせず、施政方針の中核をなしていることに驚いています。それほど先進的な内容だったのか、「地域活性化」の取り組みの核心部分は、実のところは時空を超えたものではないのか、思案を巡らせているところです。

助言、提言の柱は3つ。①東アジアが入る広い地図で我々の住むエリアを見る②地域間が競争しながら連携する③東西を高速道で結ぶ—というものでした。人と物が高速道でつながり、地域間がつながり大きなパワーとなって世界とつながる。3つの助言、提言のキーワードは「つながる」、つまり「連携」。平成30年度の施政方針で、地方創生という目標に向かうキーワードに「連携」を掲げたのも不思議と言えば不思議なめぐり合わせです。

ということで、以後は「連携」を軸に話を展開しようと思います。「連携」の柱は、松江、出雲、安来、米子、境港の各市を包含する「中海・宍道湖・大山圏域」という広域の連携。圏域の人口は65万人。日本海側では新潟、金沢圏域に次ぐ3番目の多さであり、このスケールメリットを生かすべく県境の壁を乗り越えた中海・宍道湖・大山圏域市長会を設立、各種事業に取り組んでいるところです。

とはいえ、県境を越えての連携は口で言うほど簡単なものではなく、暗中模索状態が続きます。そこに、思いがけない“救世主”が現れたのです。インド思想・仏教学の世界的権威である中村元博士（1912—99年）がその人。生まれた松江を愛し、



松江市長 まつ うら まさ たか  
松浦 正敬

インドの人たちに敬われる中村博士の蔵書約3万冊を納めた記念館を、島根と鳥取が接する中海の大根島（松江市八束町）に設けたところ、駐日インド大使をはじめインド関係者が訪れ、それが縁でインド（ケララ州）との経済交流が始まったのです。また松江に住むプログラミング言語「Ruby」の開発者であるまつもとゆきひろ氏の存在が大きく、ITを通じてケララ州との人材交流やインターンシップなどの取り組みにと広がりを見せつつあります。

その後も松江城の国宝化、昨年末の「島根半島・宍道湖中海ジオパーク」認定と圏域に追い風が吹く中で、今年4月には松江市が中核市の仲間入りを果たしました。圏域のリーダー役として、本年度の「大山開山1300年祭」「不昧公200年祭」を成功に導くのはもちろん、海外交流や東南アジアからの新しいインバウンド市場の開拓などにスピード感をもって取り組みたいと思っています。

### 3. 課題は高速道と新幹線の整備

助言、提言の①②は具現化しつつありますが、③東西を高速道で結ぶ一は残念ながら道半ば、新幹線に至っては絵にかいた餅状態が続いています。高速道と新幹線の整備は「強い日本をつくるための国家戦略」であり、圏域にとっては急増する外国人観光客誘致対策という喫緊の重要課題でもあります。中国地方という大きな枠の行政、議会、関係機関や団体等が連携して早期実現に向けて汗をかこうと思っています。

さて肝心の松江市ですが、さまざまな連携に

よって「選ばれるまち」の実現に向けて総力を挙げて取り組んでいるところです。時代に合わせたインフラの活用と老朽インフラの再整備も、その大事な要素の一つと考えます。人口減少社会に対応するため、圏域内各市の施設との役割分担や共同使用も視野に入れる一方で、市民の安心、安全を高めるために既存施設の改修をしっかりと行おうと思っています。

また、「選ばれるまち」になるためには、大規模なインフラ整備が欠かせないのも事実。松江の玄関のJR松江駅周辺、松江城周辺、この二つのエリアを結ぶ大橋川エリアの拠点性をそれぞれ高め、一体的に結ぶことで、利便性の向上とにぎわい創出を図っていくのが重要であり、議論を進めていきたいと考えています。

### 4. おわりに～人づくりと「地域経済の好循環化」～

とかく行政は経済性を度外視しがちですが、私は「地域活性化の推進」の大きなカギは「地域経済を好循環させるための戦略の構築」と考えています。外国人観光客とIT技術者を呼び込む、農業では地産地消を推進させる。インフラ整備では圏域外にお金を出さないよう、資材などはなるべく圏域内で調達する。これらの歯車がかみ合うことで地域経済は好循環し、地域が活性化する。連携をキーワードに「人づくり」と「地域経済の好循環化」で、全国で繰り広げられている地方創生競争を勝ち抜こうと思っています。